

1 活動のねらい

冬のニュースポーツに友達と工夫しあって取り組み、チームワークで勝利することの楽しさを味わいます。

2 育てたい能力

A2 積極性 A4 交友・協調 A1 自立

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

すりばち広場（荒天時はプレイホールでも実施できます）

4 活動時期

12月～2月 積雪時

5 所要時間

2時間～3時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

・活動に適した服装 ・帽子 ・手袋

【自然の家で貸し出しできるもの】

・ヘルメット ・ゼッケン ・フラッグポール ・シェルター ・雪玉製造機
・室内球 ・電子ホイッスル ・ストップウォッチ

8 活動の手順

（1）事前

- ①自然の家職員と打ち合わせを行い、実地踏査で現地の状況を把握した上で計画を立てます。
- ②チーム分け、役割分担をしておきます。
- ③安全に活動するため、活動に適した服装についての事前指導を行います。

(2) 活動

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



③注意点等について説明します。
※ルール例は「参考」をご覧ください。



⑤後片付けをします。
※必ず引率者が立ち会ってください。

②用具を準備します。

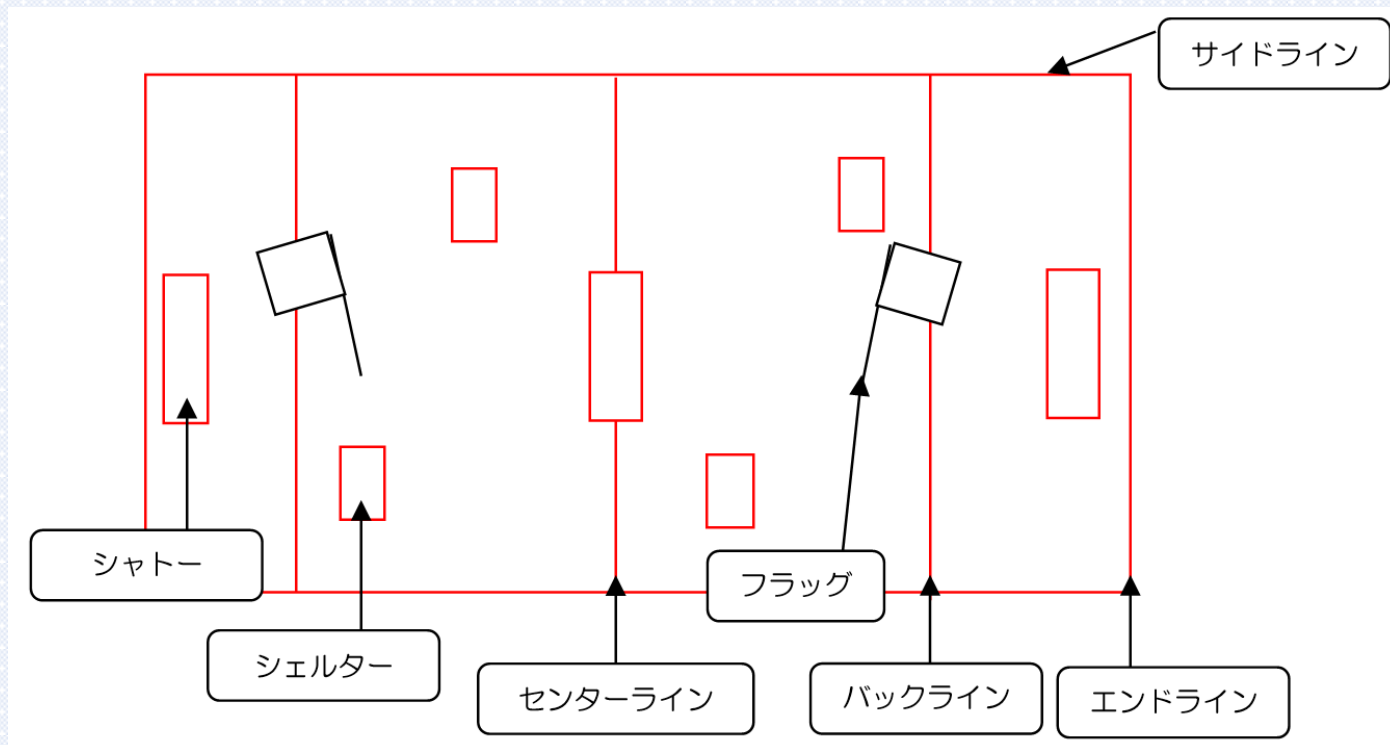
④ルールに従って活動します。



⑥自然の家事務室に活動終了の報告をし、借用物品を返却します。
(破損等があればご連絡ください。)

9 留意点

- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- 健康観察、準備運動を十分に行ってください。
- こまめに服の着脱を行い、体温を調整してください。
- ルールは簡略化することもできます。



ルール例 日本雪合戦連盟

(1) チーム編成

- 1 チーム 10 名を基本とします。
- 監督 1 名、選手 7 名（フォワード 4 名、バックス 3 名）、補欠 2 名

(2) 役割

- フォワード…自コートバックラインより前のみで競技します。
- バックス……コートすべてを使うことができます。
※競技者がセンターラインを越えて同時に相手コートに入れるのは 3 名までです。

(3) 競技時間・セット数

- 1 セット 3 分間の 3 セットマッチ 2 セット先取した時点で終了です。

(4) 競技の流れ

- ① 1 人 2 個以内の雪玉を持ち、バックライン上に整列します。
- ② 主審の合図で競技を開始します。
- ③ アウトにならないようにしながら、相手チームの選手に向かって雪玉を投げます。
【アウトになる時】
 - 雪玉に当たった時
 - サイドラインやエンドラインを越えた時
 - コート外の雪玉に触れた時
 - フォワードが自コートのバックラインを越えた時
 - フォワードが自コートのバックライン後方のコート上にある雪玉に触れた時
 - 無効の雪玉を使用した時
 - アウトになった競技者から雪玉を受け取った時
 - 競技中、不正な雪玉を作ったり、雪玉を隠し持ったりした時
 - 空中にある雪玉に直接触れた時
(自分の足に落とす、お手玉する、味方同士でパスをする、味方同士で当てる)
 - 壊れた雪玉を作り直したり、新しく雪玉を作ったりした時
- ④ アウトになったら、雪玉をその場に置いて、近くのサイドラインからコート外に出ます。
- ⑤ 外に出てもヘルメットを着けたままエンドラインの後ろで待機します。
- ⑥ 選手は雪玉製造者から雪玉を受け取ります。
【受け渡し方法】
 - 直接手渡しする
 - コート上に置いたり転がしたりする
 - シェルターやシャトーの上に置く
- ⑦ 競技者はセット間で交代することができます。一度交代した競技者でも次のセットで協議に復帰できる。
- ⑧ 主審の合図で競技終了です。
- ⑨ 勝敗を決定します。
【判定】
 - 時間内に相手チームのフラッグを抜いたチームの勝ち
 - 時間内に相手チームの競技者全員をアウトにしたチームの勝ち
 - 時間内に勝敗が決定しない時は、コート内に残った人数が多いチームの勝ち
 - センターラインを越えて相手コートに 4 人目の選手が入ったチームの負け
 - 上記において勝敗が決しない場合は、引き分け

